

カルメル

霊性センターニュース



2022年12月

392号

『靈性センターニュース』

2023 年度の郵送お申込みのご案内

靈性センターニュース 愛読者の皆様

ご愛読をありがとうございます。

2023 年度（1 月～12 月、8 月休刊のため 11 冊）の『靈性センターニュース』郵送をご希望される方は、以下の振替口座に 2,750 円程度の献金（郵送料込みで 1 冊 250 円の献金とすれば、11 冊で 2,750 円程度の献金）をお振込みいただければ、幸いです。

一度に 10 冊までお送りできますので、複数ご希望の方もご遠慮なくご記入下さい。（郵送料のみですので 1～10 冊まで同金額になります）

郵便番号口座： 00910-6-333184

加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、混乱を避けるため、年間の「郵送申込」か純然たる「靈性センターへの献金」かを明記してください。また氏名、郵便番号・住所、電話等もお忘れなくご記入ください。

お問い合わせは、事務局の方へ電話かファックスか e-mail で、お願いいたします。

毎号の『靈性センターニュース』はホームページからも読む事ができます。過去のバックナンバーも掲載しておりますので、こちらもご利用下さい、

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

『カルメル靈性センターニュース』事務局

目次

来年度の郵送お申込みのご案内	1
目次	2
教会からの巻頭の言葉	3
心の泉	5
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	30
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12章 21節)

『教会憲章』

第八章 キリストと教会の神秘の中の神の母、聖なる^{おとめ}処女マリアについて」より

「神の母は、信仰と愛、またキリストとの完全な一致の領域において、教会の典型である。教会は、正当に母とも^{おとめ}処女とも呼ばれるが、その教会の神秘において、聖なる^{おとめ}処女マリアは、他に先駆けて、^{おとめ}処女としても母としても卓越した独自の模範を示した。」(63)

「なお教会は、マリアの秘められた聖性を観想してその愛を模倣し、父のみ心を忠実に果たし、忠実に受け入れた神のことばによって、自分もまた母となる。実際、教会は、宣教と洗礼をもって、聖霊によって宿され、神から生まれた子どもたちを、新しい不滅の命に生むからである。また教会は^{おとめ}処女でもある。教会は、花婿に誓った忠実を清く完全に守り、自分の主の母に倣い、聖霊の力によって、全き信仰、堅固な希望、誠実な愛を清い^{おとめ}処女のように保つからである。」(64)





心の泉



宇治カルメル会修道院



第三巻

第五十章 悲しみもだえる時、人はすべてを神のみ手に任せるべきである 7 神の感覚

主よ、私が、知るべきことを知り、愛すべきことを愛し、あなたの喜ばれることをたたえ、あなたにとって尊いことを尊び、あなたにとって卑しいことを軽蔑するようにさせてください。「この世のことを、人の目で裁くことのないように、私と同じ無知な人々の話から物事を判断することのないようにしてください」(イザヤ11・3)。物質的、霊的なことを、真理に基づいて判断し、特にいつもみ旨を実行させてください。

人は、感情に従って判断するので、何度も過ちを起こしやすいのです。見えるものだけを愛してこの世に従う者も、誤りやすいものです。他人から、実際以上に偉く思われても、それで実際偉くなるでしょうか！人間がほめる時は、うそつきをうそつきが、虚栄心の強い人を虚栄心の強い人が、盲目の人が盲目の人を、弱い人を弱い人が、互いにほめ合うにすぎません。実際は、理由もなしに他人をほめるのは侮辱するに等しいのです。「人間は、主のみ前にある以上の者ではなく、それだけの価値しかない」と謙遜な聖フランシスコは言っています。》

第五十一章 崇高なことを成し得ない時には、単純なことに努めなさい

1 主

《子よ、あなたが、聖徳へのあこがれを熱烈な状態で保ち続けることはむずかしく、一段と高い霊的観想を続けることも実行しにくい。むしろ、ときどきは、人間本来の弱さのために、それより単純なことをおこなうことによって、不本意ながらも、この朽ち果てるべき体の荷を負わなければならない。あなたがこの死すべき体をもっている間は、倦怠と憂うつけんたいを感じないわけにはいかない。だから、肉をまとっている間は、しばしば、肉の重さを嘆くべきであろう。なぜなら、あなたは、霊の修行と天の観想に不断にふけっていることができないからである。

2 天国を思う

そのような時は、単純で物質的な仕事にたずさわり、善行に慰めを見つけて、天から私の恵みが下るのを、堅固な信頼をもって待ち、再び私の訪れを受けて心の不安を解かれるまで、流罪るざいの身と心の乾燥を忍ぶことが、特によいのである。そうするなら、私はあなたの労苦をすべて忘れさせ、心の平和を味わわせるであろう。また、聖書の楽しい牧場を見せよう。そうすれば、あなたは心をくつろがせ、「掟の道」(詩編119・32)を進むだろう。その時あなたは、「この世の苦しみは、来世において私たちにあらわれる光栄と比べものにならない」(ローマ8・18)と言うにちがいない。》

主よ、来てください！

2022-12

12月、師走とも呼ばれるこの時期は、教会暦ではすでに

新しい年がはじまり、救い主を待ち望む待降節に入っています！

主よ、来てください

主よ、来てください

主よ、来てください



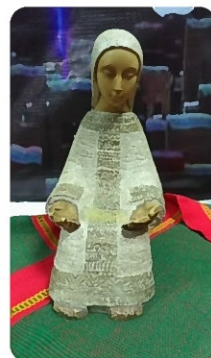
人が神を捜し求めるとすれば、神であるその愛する方は、はるかに勝る愛をもって、その人を捜し求めておいでになる。*1



失われた時間、神を愛することなく過ごした瞬時のためにも、大きな心の痛みを持つ。*2 ~十字架の聖ヨハネ~

わたしのために そんなにも小さくなられた神を
わたしは 恐れることはできません。
わたしは 幼いイエスを愛する

愛と慈しみそのものである方を！ ~テレーズ~



お告げからご降誕までの数か月聖マリアの態度のうちに、神が魂の底知れない深みにおいて内的生活をするよう選ばれた人々が生きるべき姿を見ます。どれほど深い平和と、深い潜心のうちに全てのことをしておられたことでしょう。

もっとも平凡な事柄も

聖マリアにとって神とともにある神的なものでした。*3

~三位一体の聖エリザベット~

日々の忙しい生活のなかで、「真のいのち、救い主イエスの誕生」を母マリアとともに待ち望み、希望にあふれた待降節を過ごされますように。

よいご降誕の祝日をお迎えください！



伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートル・ダム・ド・ヴィ

*1『愛への道』141

*2『愛への道』299

*3『いのちの泉のほとりにて』 ドン・ボスコ社 伊従信子

創造主への賛美（59）

くのり
九里 彰

神を賛美するには、神の前でのまことの「謙遜」が必要であり、そこには神への「恐れ」、畏怖の念が生じていることが、アビラの聖テレジアの言葉から分かった。

また聖女によれば、この「謙遜」は、真の自分を、すなわち「惨めさと無にすぎない」ことを知ることにあつた。それは、自己卑下では決してない。どういうことか。

私たちの自然的な意識は優劣を絶えず問題にしているので、この自己認識からは自己嫌悪がもたらされるのが普通であろう。だが、それは自己嫌悪や劣等感、あるいは逆に自己を誇ることや優越感をはるかに超え出るのである。つまり、絶えず優劣を問題にする自己意識やこの世の価値観から解放されるのである。肝心なことは、劣等感からだけでなく、優越感、思い上がりからも解放されるのである。

なぜなら、それは神の前での自己認識だからである。この世では、日々、さまざまな事柄の比較からどの人の心の中にも優劣の認識と共に優劣の感情が生じている。そこで、私たちは容易に些細なことで劣等感に陥り、また些細なことで優越感に浸るのである。しかし、万物をつくり、万物を支えている神の前では、私たちのそのような意識や感情が、地球が大宇宙の前にちっぽけな小惑星にすぎないように、実にむなしい、無意味なものであることがはっきりと分かるのである。

私どもの行なうあらゆる善業は、自分自身という源から出るのではなく、私どもの靈魂の木が植えられているあの泉、またその熱で私どもの業に生命を与えるあの太陽から来るということを見たからです。その人（訳注：テレジア自身のこと）はこの真理をあまりにもはっきり見たので、それ以来というもの、自分が何かよいことをするか、あるいは他人がそうしているのを見るかすると、神のお助けなしには人にはまったく何一つすることができないと知って、すぐさま、その本源にまでさかのぼってしまったと申しました。また、それだからこそ、すぐにそれについて神を賛美したのでした。そして、何かよいことをした場合、彼は自分のことを全然考えないのが常でした。（『完徳の道』第1の住居第2章5）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (174)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

涙をおさえることができなかった②

聖ヨセフのルチアと神の母のフランシスカは、「だれが悲しみを知らないであろうか……」の短詩を歌い始めました。

十字架のヨハネは感動し、心を打たれ、涙を流し始めました。歌い手の一人、フランシスカは、事のすべてを詳しく語ってくれましたが、それは注意深く耳を傾けるに値します。

彼女はこう言っています。

「このために、しばしば、(ヨハネ修士は)すでに述べたように、この修道院に来て、全修道女に完徳について教えてくださいました。それらの中に、トレドの牢獄から脱出して来た時のこともあります。トレドから彼はカルバリオの修道院にやって来ました。この修道院の面会室に聖なる十字架のヨハネ修士がいた時、イエスのアンナ修母は、この証人と聖ヨセフのルチア姉妹(シウダ・レアルの修道院院長であった時亡くなった)に、聖なる十字架のヨハネ修士のいる前で、死人のようになってやってきた彼を慰めるために霊的なコプラ(訳注: 8音節 4行の韻文の詩)を歌うよう命じられました。彼は、骨と皮ばかりで、心神喪失のような状態で、非常に衰弱していましたので、ほとんど話すこともできませんでした。以下のような言葉の詩を歌いました。

だれが悲しみを知らないであろうか
この苦しみの谷で
いいことも知らないであろうか
愛を味わったこともないであろうか
こうして悲しみが愛する者たちの服となる

(P. 九里訳)

待降節 第2主日 (A)

(マタイ3 : 1-12)

本日、マタイの福音は私たちに洗礼者ヨハネについて告げています。火のように熱いメッセージを持つ火の預言者です。彼は、人々を正義に呼び集める燃えさかるたいまつのようにあり、人々に神を指し示す案内標識であり、神の人の権限を持っています。卓越した人であるヨハネは、神の王国は近くにあり、メシアは近づいていると説いていました。ヨハネのメッセージは私たちの待降節のテーマです。

マタイは、ヨハネが洗礼を授けるという行為よりも、ヨハネの言葉に重点をおいています。マタイはヨハネの説教から「悔い改めよ。天の國は近づいた。」との直接の言葉を記録しています。洗礼者ヨハネは、ファリサイ派とサドカイ派の人たちに約束されているメシアを認め、受け入れるために自分たちの生活を改めるようにうながします。彼は、メシアはすぐに来ると期待している一般の人たちにメシアを受け入れるために正義と慈善を行い、自分たちの生活を新たにするように求めます。私たちがクリスマスの時期にキリストを迎える準備をするとき、ヨハネは同様に私たちに「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。」と忠告しています。

今は、到来するお方のために準備する季節です。私たちは、誰かがおいでになる印としてリースにアドベントのろうそくを灯し、準備して翌週を迎えます。洗礼者ヨハネは、私たちに自分の生活の中で救い主イエスをどのように準備するかについてのヒントを与えています。ヨハネは、わたしたちの生活の中に個人的な悔い改めのメッセージを持って入って来ます。待降節は、私たちが自分の生活を見て、必要な変化をする時です。悔い改めは、ギリシャ語でメタノイア (metanoia) といいます。Metaは「変化すること」、Noiaは、「考え方」を意味しています。ヨハネが説いている悔い改めは、「深く後悔する心」とするほうがよりよく理解できます。真の、本質的な変化をする心です。キリストがおいでになるのを準備する心です。罪の赦しのために悔い改める心です。

私たちの進路を神への進路に変え、ヨハネの意志を求め、彼の意志を行い、私たちの心がイエス様をお迎えする心となるように準備するため、洗礼者ヨハネをお手本とし、案内者といたしましょう。

(Sr. Paulina)

待降節 第3主日（喜びの主日）

（マタイ 11・2-11）

洗礼者ヨハネが弟子を送ってイエスに尋ねさせました。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」

イエスは答えました。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」

どれも信じがたい奇跡ばかりですが、その意味は「喜ばしい出来事が実際に起きている」ということです。苦しんでいる人、抑圧されている人、貧しい人などがその苦境を和らげられ、思わず喜び、感謝せずにはいられない事態がイエスによってもたらされたということです。待望の救い主が来た、というしるしです。

「闇と死の陰の地に住む」人々にとって（マタイ 4・16）、これは待ちに待った夜明けの光だったのです。この返事を聞いたヨハネも心躍るような気持ちに包まれたことでしょう。かつて母エリザベトのお腹の中で踊ったように。

クリスマスが近づきました。イエス様がお生まれになったことで、どれほど喜ばしいことが起きたかを今年も告げ知らせなければなりません。ウクライナ戦争、ミサイル、コロナ、統一教会、etc. 暗く、悲しいニュースばかりだった 2022 年。今、闇と死の陰の地に住んでいる人々に光を届けなければなりません。

イエス様によって救われた喜び、変えられた体験に感謝しながら、「主はあなたと共に」という愛のメッセージを現代世界に送り届けましょう。真のクリスマスプレゼントであるインマヌエルという福音を。

（今泉健 神父）

待降節 第4主日 (A)

(マタイ 1 : 18 - 24)

いよいよ待降節の最終週を迎えます。預言の成就と偉大な神秘である受肉の幕開けの 때가近づいています。この神秘は不意に乱入し、人間によって計画された婚約と結婚をくつがえすという衝撃をもたらしました。ここで神のみ旨に完全に従ったヨセフとマリアの応答に注目しましょう。この2人は、痛みを伴う衝撃的な経験や出来事に対してどのように向き合うべきかを教えてください。

「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである」。今日の福音では私たちはヨセフに敬意を表します。聖ヨセフは沈黙の人であると同時に、気高い行ないの人です。偉大さとは、その人の発言内容で決まらず、むしろ、その言葉の証し人としてどのように生きるかにかかっています。聖ヨセフは神をおそれる正しい人でしたので、マリアの妊娠が発覚しても彼女の名誉を傷つたくありませんでした。婚姻前に妊娠したということは、互いに誠実に貞潔を守るという誓いを破った明らかな証拠でしたが、ヨセフはマリアに怒りをぶつけませんでした。神はそんなヨセフに報いて恵みを注ぎ、マリアの夫としてまさにヨセフが選ばれたのだと保証しました。神からのこの使命を受け入れるために、ヨセフは全能の神への絶対的な信仰と信頼が必要でした。ヨセフは天使による神のお告げを信じ、マリアを妻として、そして胎内の子を神の御子として迎え入れました。マリアとともに、ヨセフも救いの歴史上重要な役割を果たしました。これはもろもろ、神の救いのご計画に対し、ヨセフとマリアが寛大さと信仰に満ちて「はい」と応えたからです。

神は、私たちが生まれる前から一人ひとりに合った計画を準備しています。とはいえ、神は私たち側からの応答も求めます。ヨセフとマリアは、それぞれ「はい」と応えました。私たちも同じく神に同意する必要があります。神のみ旨に自分自身の心を開いていきましょう。受肉の祝宴であるクリスマス喜びいっぱい祝いに、神への信仰と希望を新たにしましょう。

キリストにおける友である皆様にメリークリスマス、そして2023年の新年明けましておめでとうございます！

(Sr. Paulina)

主の降誕

(ルカ 2 : 1 - 14)

今日は私たちにとって、世界にとって大きな喜びの日。救い主の誕生を喜び祝う日。宿屋にはマリアとヨセフの泊まる場所はなく、月が満ちて生まれた子は飼い葉桶の中。人々に善き訪れを伝える主の天使は、為政者、宗教的指導者、学者達のところではなく野宿をしている羊飼いたちのところに「神の偉大な救いの恵み」を伝えに行きました。

神の救いは全ての人々のため、神は弱い人、貧しい人々、小さな人々のことを忘れず心に留めて下さるのですね。主の栄光が周りを照らした…と聖書には記されています。驚くべき光景が、羊飼いや羊たちの周りに広がったのでしょうか。

神の子イエス・キリストは来られました。ひっそり人知れずお生まれになりました。その善き訪れを、神は天使を通して、羊飼いたちを通して、知らせて下さったのです。

あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである…と天使は羊飼いたちに告げました。そして天使の大軍が神を賛美する…。今日の福音、主の降誕（夜半）はこの場面で終わっています。

丁寧に福音の場面を一つ一つ思い巡らし、神様の私たちへの想いを受け取りましょう。

その想いを大切に胸にして、その後、羊飼いたちがイエス様のところに向かった様に、喜んでイエス様のところへと喜んで向かいましょう。そこでイエス様と出会い、礼拝し、胸に抱いて、心から迎えましょう。私たちの心をイエス様のくつろげるお宿、暖かな布、飼い葉桶にしましょう。私たちのささやかな心を受け取り、安らいで下さるでしょう。

主のご降誕に想いを巡らす時、新たな発見、新たな出会いがあるかも知れませんね。

お生まれになった幼な子イエス様を眺めながら、時を過ごすことができますように。天使たちの賛美の声にあわせて、私たちも、ともに神を賛美することができます様に。神の平和が私たちのうちにあります様に。私たちが神の御心に適う者となります様に。

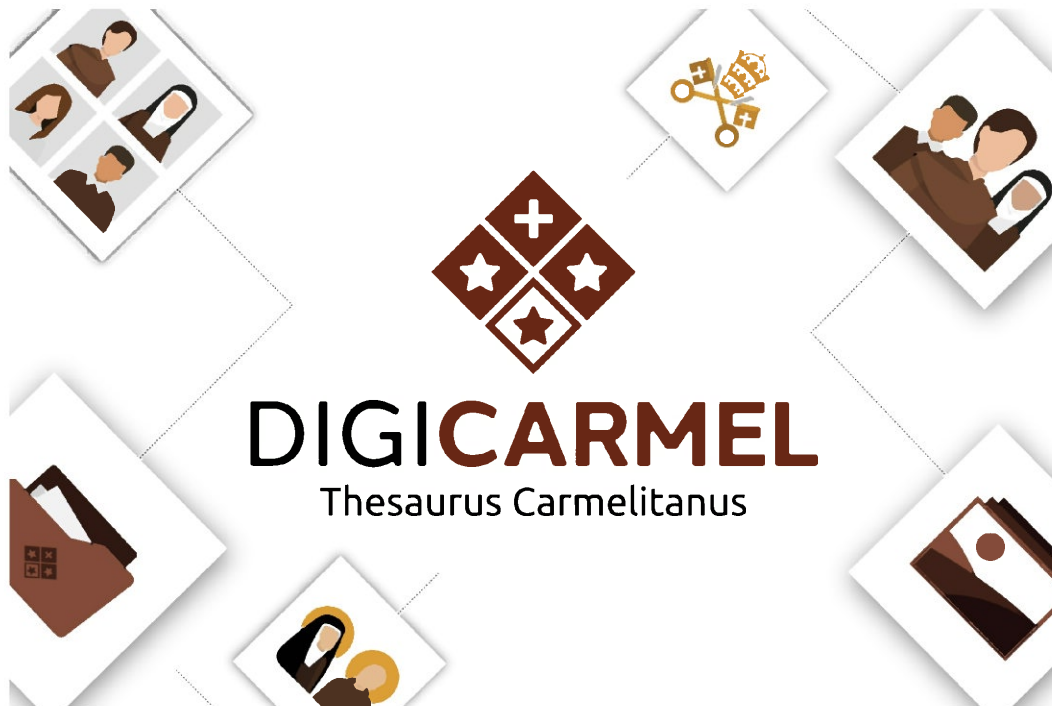
(Fr. 古川利雅)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2022年11月10日



2022年10月15日より「デジカルメル」のデジタルプロジェクトが一般に公開されています。(www.digicarmel.com):わたしたちは、跣足カルメル修道会本部アーキビスト(注1)の、アンジェロ ランフランキ神父とそれを見つけ出しました。

アンジェロ神父、デジカルメルとは何ですか？

デジカルメルは単なるウェブページではなく、跣足カルメル修道会全体の現在の情報と過去の情報をすべて管理するために作成されたオンライン データベースです。

デジカルメルが作られたのはなぜですか？

カルメルには長く豊かな歴史があり、教会独自の表現と霊的な側面をもち、使徒的、文化的、芸術的な驚くほどの複合性がみられます。この歴史やわたしたちの生き方と霊性の宝を保存し、共有することは、カルメル会ファミリーを広め拡大していく義務であり、一方では毎年起こるこれら多数の出来事の処理は今まで以上に困難になってきています。

この課題を認識し、わたしたちが多く用途で動的に統一された新しい技術的手段を利用するために、使いやすい方法で情報を整理できる新しい作業方法が考案されたのです。

デジタルメルの使用にはどのような利点がありますか？

デジタルメルは適応性があり信頼できるコンピューター操作上の基礎となるソフトウェアで、登録や参加のため、および修道会の各家や管区、アーカイブ(注2)、雑誌、カルメル会の出版社、その他の組織体や研究などで、すでに作成および処理されている情報や資料を得るため、即座に利用することができます。このようにすべての資料を一ヶ所に集めることで、情報調査で行われる作業の効率と有用性が倍増し、貴重な資料の無駄な分散を回避できます。

デジタルメルでは複雑な情報はどのように構成されていますか？

すべてのデータベースの「心臓部」である主要な領域は、コンспекタス(注3)、アクタオルディニス(注4)、および以前の歴史的出版物に存在するこれまでの作品のデジタル版であり、修道会、修道者・会員、家、統括地、およびその他の関連する実情と取り組みの主要な事実を保存し共有することを目的としています。ここが、データベースの主力となる部分です。そこには、デジタル形式で再編集されて自由に検索でき、多言語でカルメル会のトピックに関する多くの本や記事が再結合された、完全で適切なカルメル会ライブラリー (BCDカルメル図書目録) があります。

今日まで、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語の五つの雑誌が完全にこのBCDに組み込まれ、2,500以上の記事が利用可能です。それには跣足カルメル修道会の創立の歴史に関する

80の特定分野の研究論文や、Istituto Storico Teresiano(HT)(イエスの聖テレジアの創立史)に関するほぼ全部の出版物があります。このライブラリーは、カルメル会の出版社や雑誌との協力のおかげで継続的に発展しています。

BCDを使用すると、今日までアクセスが困難だった事柄を一つのプラットフォーム資料で見つけ出し、このライブラリー内で利用可能なすべてのドキュメントのテキスト内で、特定の単語をOCR(注5)テクノロジー使用により調べることができます。

デジタルメルの三番目のセクションは、修道会のより適切なデジタルアーカイブであるカルメリタヌム デジタル(ACD)で、まだ作業が進行中です。これは各カルメル会のアーカイブが必要に応じて特定の資料をオンラインで共有できるものです。総長館本部のアーカイブでは、宣教活動のアーカイブの一部をデジタル化し信頼性の高い情報提供を最近開始しています。そして数か月以内にACDの一部として入力され、16世紀以降の豊かな宣教の歴史に関するより多くのオリジナル文書が見られるものになります。わたしたちは他のカルメル会のアーカイブもすぐこの手段を修道会の奉仕に使用し、歴史的なカリスマ性をよりよく保存し、共有することを願っています。

そのソフトウェアは画像アーカイブも処理できることを知っておきましょう。わ

わたしたちの次のプロジェクトの一つは、総長館本部のアーカイブに保存されているカタログと豊富な写真ストックの出版物、および修道会の芸術的遺産全体を概ね包含するバーチャルな博物館を作成することです。

デジカルメルは今開発プロセスにあるため、「クローズド」(注6) アーカイブとは見なされません。大量の情報を考えると、それは修道会すべての制度的歴史の「完全な」データベースではありませんが、わたしたちはその多様な部分の充実を持続して、カルメル会関係者一般にも利用できるよう慎重に努力を重ねています。

わたしたちは、カルメル会ファミリーへの奉仕において、これら豊富な資料の供給内容をよりよくしていくために、利用者の方々からのフィードバックを大切にしています。

誰がデジカルメルに興味を持つことができますか？

興味を持っている人は、情報を提供する人とそれを検索する人の両者でしょう。その意味で、デジカルメルは、独自の資料をデータベースに挿入し、そのドキュメントをよりよく知らせたい研究者、出版社、雑誌編集者などにとって、カルメル会のアーカイブは非常に興味深いものです。

またカルメル会の歴史、カリスマ性、カルメル会修道者・会員、制度について関心のある人々にとっても同様に興味ある内容を提供しています。

皆さんから当プロジェクトの責任者への連絡、その内容についての質問、参加・提案などは、次のメールアドレスに送信してください。: digicarmel@ocdcuria.org。

文中の注釈

(注1)アーキビスト:公文書記録保管人

(注2)アーカイブ:組織や個人の活動で作成される文書を単に収集・保存するだけでなく、

ある体系に基づいて編集し、目的をもって保存される文書の集合体。元来は公的記録や公文書保の保存場所を示す。

(注3)コンスペクタス:チェックリスト法と観察法を総合した蔵書評価法、

(注4)アクタ オルディニス:修道会のインターネット上の著作権関連の侵害防止の国際条約

(注5) OCR:オーシーアール、光学的文字認識)とは、手書きや印刷された文字を、イメージスキャナやデジタルカメラによって読みとり、コンピュータが利用できるデジタルの文字コードに変換する技術。

(注6) クローズド・アーカイブ:アーカイブの記録に責任を持つ者により、アクセスが制限され管理されているもの。

(訳・注:小宮山延子)

糸巻き棒からペンへ(81)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

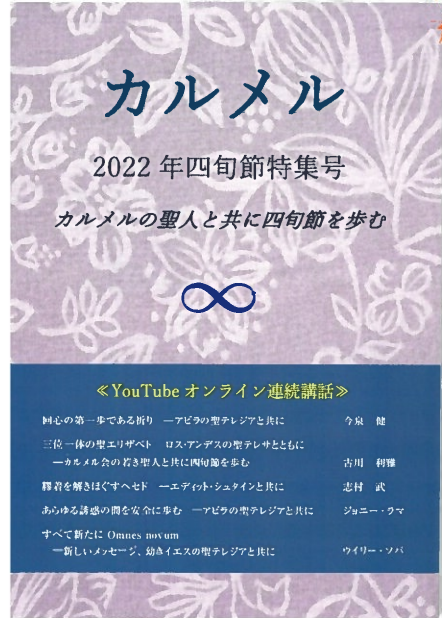
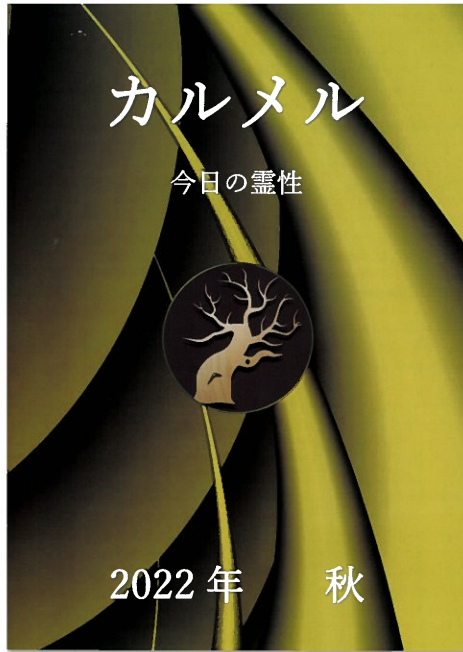
実際、愛が本物となるには、二つの本性が出会い、愛する者同士が同じようにならなければなりません。主の本性は、すでにご存じのように、私たちを裏切ることはできず、神のごとく私たちを愛してくださるということです。これに対し、私たちの本性は、卑しく惨めなものなのです。

このことをいくら考えても、それほど偉大な神が、悪臭を放つウジ虫たちと交わるためにこの世に来られるということは、よく理解できません。私のような者を愛し、私を同伴者として受け入れてくださるこの偉大な皇帝の謙遜に、私は驚かされます。私の主よ、私の神よ、あなたの偉大さは何とすばらしいことでしょうか。愚かな牧童のように、私たちはこの世をさまよいます。あなたについて何か理解していると思われるのですが、それも些細なことではありません。あなたの威光を見て私が驚嘆するとすれば、私の主よ、あなたの謙遜やあなたの愛を思いめぐらすとき、私の驚きはさらに増します。他の人が私たちを紹介したり、あなたへと導いてくれる必要などなく、まったく好きなようにあなたと交わることができるのですから。あなたご自身が、私たちの靈魂のようにほんとうにちっぽけなものへと降りて来て、私たちを少しずつ大きくし、私たちに授けようとするものに求められるふさわしい品位へと高めてくださるのです。

祈りの土台

おそらくあなたは、私が祈りについて話すというと、どのように座り、どのように呼吸し、どれほどの時間を実践に捧げるべきか、よく祈りに従事するためにどのように時間を配分すべきかなどについて教えてくれるのだろうと考えているかもしれませんが、それは、私の意図ではありません。むしろ私が話そうと考えているのは、建物の土台についてです。その上に、祈りという建物が築かれねばならないからです。

(P.九里訳)



2022年 特集号

カルメルの聖人と共に四旬節を歩む

回心の第一歩である祈り

—アビラの聖テレジアとともに

今泉 健

三位一体の聖エリザベト

ロス・アンデスの聖テレサとともに

—カルメル会の若き聖人と共に四旬節を歩む

古川利雅

膠着をときほぐすヘセド

—エディット・シュタインと共に

志村 武

あらゆる誘惑の間を安全に歩む

—アビラの聖テレジアと共に

ジョニー・ラマ

すべて新たに Omnes novum

—新しいメッセージ、幼きイエスの聖テレジアと共に

ウイリー・ソバ

2022年 秋号 No.386

エディット・シュタインの言葉 抄(三)

釘宮明美

道の靈性(続)第三回

イエスの道の厳しさと喜び

田畑邦治

日々の出来事の中で 神の霊は導く(3)

—テレーズ生誕(1873~1897)一五〇周年を迎えて

伊従信子

あなたとなら どこへでも

森 みさ

キリストの説かれた 幸いなる道(7)

九里 彰

霊的研究会講義録(17)—聖書・祈り・愛について

奥村一郎

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださりました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジア・ヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 皆 畏（1）
- 第2章 皆 畏（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギー
- 第10章 英知と〈空〉

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士の学位を得る。その後、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる いのりの道

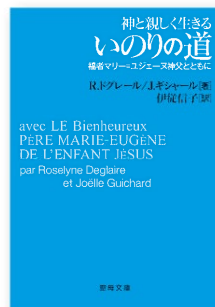
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



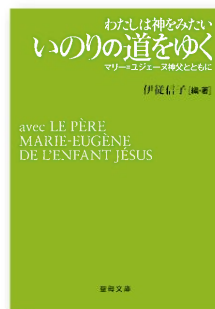
わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

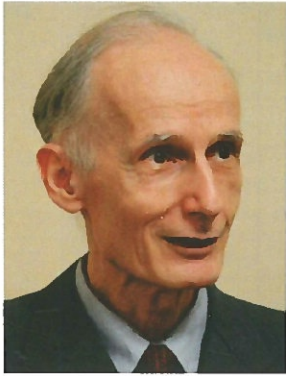
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかがわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2022年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(土)~25日(日) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高司 神父

2023年

2月25日~26日

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

12月21日

2023年 1月18日 2月15日 3月15日

- ・キリスト教霊性入門(木曜日10時~16時 昼食付) 松田浩一神父

12月8日

2023年 1月12日 2月2日 3月2日

- ・一泊黙想会 (土曜日16時~日曜日16時) カルメル会士

2023年

1月14日~15日

3月18日~19日

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時~最終日朝食) カルメル会士

12月27日(火)~2023年 1月 5日(木)

- ・カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで(初日16時～最終日16時)

カルメル会士

2023年

2月 4日(土)～ 5日(日)

- ・特別黙想会(初日20時～最終日16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
11月25日(金)～27日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

* 毎月第三水曜日（8月はお休み）

* 10時～16時 3,500円（昼食付）

<2022年度開催予定日（2022年4月～2023年3月）>

2022年 4月20日 — 5月18日 — 6月15日 — 7月20日
9月21日 — 10月26日 — 11月16日 以上終了
(* 第4週)
12月21日

2023年 1月18日 2月15日 3月15日

コロナの状況により中止となることもございます。
当面は少人数(定員10名)での開催とさせていただきます。

* 当修道院司祭が交代で指導いたします

今泉 健 神父
ジョニー 神父
志村 武 神父

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: 03-5706-7355 Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証していく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思えます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2022年 ~~4月2日（土）～3日（日）~~ 16時～翌日16時

~~7月9日（日）～10（日）~~ //

~~10月29日（土）～30日（日）~~ //

2023年 2月 4日（土）～5日（日） //

会費：¥5,000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp





宇治カルメル会 黙想会案内
(2022年度～)

【一般のための黙想】 中川博道神父
1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

2023年
1/14～15 2/18～19

【聖書深読】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

2023年
1/21 2/11

【祈りの学校】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

12/8

【カルメルの霊性】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

十字架の聖ヨハネ 12/17(土)～18(日)

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

12/27(火)～1/5(木) 中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】

***<クリスマス>**

12/24～25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

新企画！

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

5/19—6/2—7/7—9/1—10/13—11/3 **終了** 12/8

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2022年 — 祈りの集いのご案内

イエス様のように祈る

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月13日 「御旨を行う」（詩編40：9）
2月10日 「私が父の家にいるのは」（ルカ2：49）
3月10日 「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」（ルカ3：21）
4月 7日* 「イエスはひざまずいてこう祈られた。父よ、
御心なら、この杯を」（ルカ22：42）
5月12日 「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」（マタイ11：25）
6月 9日 「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」
（ルカ6：12）
7月14日 「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します」
（ヨハネ11：41）
8月 休み
9月 8日 「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ23：46）
10月13日 「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて」（ルカ22：19）
11月10日 「イエスは天を仰いで言われた。父よ・・・」（ヨハネ17：1）
12月 8日 「天におられる、私たちの父よ・・・」（マタイ6：9）



予約は前日の16：00まで

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
広島サダナ I	2023年 1/7(土)9:00- 9(月・祝)16:00	Fr植栗 Fr アレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク 082-239-0034
フォローアップ	1/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	シャルトル聖パウロ 修道女会九段修道 院 (九段北)	来間(くるま) 裕美子※ sadhana12378@ yahoo.co.jp
フォローアップ 新 I	1/22(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	援助修道会 リヒト宣教室(市ヶ谷) ※ミサは無し。イスでの 黙想です。	来間(くるま) 裕美子※
名古屋 サダナ II ※前半・後半合 わせて参加でき る方のみ申し込 み可能	【前半】 2/4(土)9:30- 2/5(日)18:00 【後半】 2/11(土)9:30- 2/12(日)18:00	Fr植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
サダナ II	2/22(水)17:30- 2/26(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野 毛修道院・黙想の家 (世田谷区上野毛)	来間(くるま) 裕美子※
フォローアップ 新 I	3/5(日) 9:30-16:00	Fr植栗	援助修道会 リヒト宣教室(市ヶ谷) ※ミサは無し。イスでの 黙想です。	来間(くるま) 裕美子※

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2022年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は、コロナウィルス感染のため、開催を中止しております。秋口からの再開を予定しておりましたが、いまだ感染の終息が見えない状況の中、今しばらく中止させていただきます。

再開する場合は、この紙面上にて再度お知らせいたします。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

インターネットから読める様になりました

『靈性センターニュース』バックナンバーを
宇治カルメル会のホームページに掲載してます。

PC版のみ PDF形式

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとかき . . . つぶやき . . .

「自分もまた母となる」(教会憲章 64)

待降節、クリスマス、降誕祭、つい、サンタクロース、クリスマスケーキが思い浮かび、ジングルベルが聞こえてくる季節。あらためて思いめぐらします。

マリア様は、宿屋には泊まる場所がなく、お告げによって告げられた神の子を、家畜小屋で出産され、布に包み、飼い葉桶に寝かせました。

何かしら、今風のクリスマスの陰に隠れてしまった、主の降誕の真の意味を問い直す必要を感じます。

キリストによって呼び集められたわたしたち教会は、ひとりひとり洗礼をとおして、マリア様と同じように、心と生活をもって、イエス・キリストをすでに受け入れ、身ごもっています。そして、マリア様の愛を模倣しながら、イエスとの真の友情を生き、人々に「優しいことばをかけ、ほほえみ、平和と友情を示すささやかな行いのあらゆる機会を逃さないように」(『ラウダート・シ』230) 生きながら、わたしたちもキリストをこの世界に生み出すように呼ばれています。

クリスマスは、マリア様のように、「自分もまたキリストの母となって」、キリストを世にもたらしていく時です(参照『教会憲章』53、64)。

コロナ禍が続き、人々のあいだに隙間風が吹きすさぶ時代、紛争によって世界が分断の傷を深める時代、宗教を装った反社会的集団によって、神とのかかわりを生きることの疑念が忍び寄る時…、闇が覆うこの世界に、わたしたちが、内なるキリストを生み出す母となっていけるかを自問します。

主の降誕祭、おめでとうございます。

(中川博道 o.c.d.)

